

# 新技術説明会

## 富山



国内唯一の寒冷土木技術の試験研究機関が開発した新技術を紹介します



## 2018年8月23日 (木)

### 開演 13:30~16:30

(受付開始13:00)

## 場所 富山県民会館 3階 304号室



(富山市新総曲輪4番18号)



昨年度の開催状況(青森)

## プログラム

13:30~13:35	開催の趣旨説明
13:35~13:45	積雪寒冷地で求められる寒地土木技術
13:45~14:15	砕石とセメントを用いた高強度地盤改良技術 寒地地盤チーム 総括主任研究員 林 宏親
14:15~14:45	積雪寒冷地における冬期土工の手引き 寒地地盤チーム 主任研究員 佐藤 厚子
14:45~15:15	不良土対策マニュアル 寒地地盤チーム 主任研究員 佐藤 厚子
15:15~15:45	道路景観向上手法に関する技術資料 地域景観ユニット 主任研究員 緒方 聡
15:45~16:15	コンクリート構造物の補修対策施工マニュアル 耐寒材料チーム 主任研究員 内藤 勲
(※講演技術の詳細は裏面参照)	
16:15~16:30	全体質疑

## 参加費 無料

## 事前申込制



詳細を左記QRコード、または寒地土木研究所HPでご確認し、参加ご希望の方は専用のお申し込みフォームより、必要事項をご記入の上、お申し込み下さい。

<http://www.ceri.go.jp/contents/event/index.html>

また、参加申込時にCPDSを申し込まれた方は、受講証明書発行時にCPDS技術者証の提示をお願いいたします。

〈お問い合わせ先〉 寒地技術推進室 tel 011-590-4046

主催：国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所

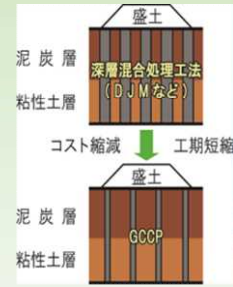
後援：国土交通省北陸地方整備局、富山県、(一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部 (予定)

(一社)富山県建設業協会

## 砕石とセメントを用いた高強度地盤改良技術（13:45～14:15）

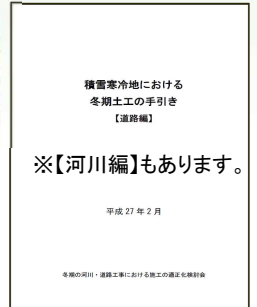
サンドコンパクションパイル工法の施工機械を使用して、砕石とセメントスラリーの混合材料を締固めた改良柱体（GCCP：グラベルセメントコンパクションパイル）を造成するものです。

深層混合処理工法と異なり、原位置土と改良材の混合を必要としないため、室内配合を実施する必要がなく工期短縮に寄与するとともに、高強度かつ均質な改良柱体を造ることができます。その結果として、コスト縮減に寄与する工法です。○特許：第4186069号【締固め硬化杭の造成工法】



## 積雪寒冷地における冬期土工の手引き（14:15～14:45）

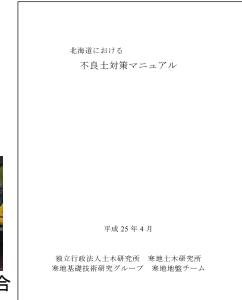
災害復旧や工期短縮等のために、やむを得ず冬期に盛土を行う場合、外気温の低下、土の凍結・凍上、雪の混入など厳しい状況に対処する必要があります。品質管理を怠った場合、盛土断面の変状や法面崩壊が発生し、土構造物としての安全性に影響を及ぼすことがあります。これまで、寒地土木研究所では多くの経験と試験施工により得られた最新の知見をもとにとりまとめた「積雪寒冷地における冬期土工の手引き」として発刊しています。今回は現場技術者が冬期に盛土を行う際に必要な考え方をご紹介します。



## 不良土対策マニュアル（14:45～15:15）

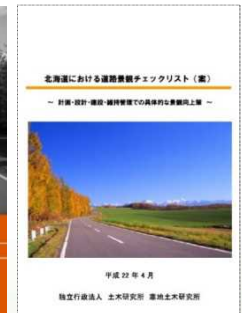
不良土対策を実施する際の基本的な考え方を示し、改良に関する一般的技術基準を定めたマニュアルです。本マニュアルは、寒冷地域に分布する土砂のうち自然含水比状態で盛土に使用することが困難な材料を有効利用するための手引き書として発刊されました。

今回は平成25年4月に初版からこれまで、寒冷地域の直轄工事で実施された不良土対策の実績をもとに改訂した内容を、現在の技術水準を踏まえてご紹介するものです。



## 道路景観向上手法に関する技術資料（15:15～15:45）

国土交通省の「美しい国づくり政策大綱（2003年7月）」をうけ、「景観緑三法の施行」をはじめとした景観施策の整備が進む中「道路デザイン指針（案）」をふまえて、北海道の自然や景観特性に配慮した、ローカル・ルールや実例を解説した技術資料です。道路景観に対する思想や解説を示した「北海道の道路デザインブック（案）」と、その実践編の「北海道における道路景観のチェックリスト（案）」により、道路事業の計画段階から既存道路の維持管理段階における、より具体的な景観改善の手法を示し、道路の安全性向上や維持管理コスト削減にも寄与する景観向上策を解説しています。今回、北陸地方の道路景観整備にも大きく参考になるとと思われるため、ご紹介するものです。



## コンクリート構造物の補修対策施工マニュアル（15:45～16:15）

既設コンクリート構造物を今後も有効に活用するためには、必要に応じて、断面修復工法、表面被覆・含浸工法、ひび割れ修復工法等の各種補修対策を適切に行うことが重要です。土木研究所では、これらの工法について暴露試験や室内実験等で得られた知見を「コンクリート構造物の補修対策施工マニュアル（共通編、各種工法編、不具合事例集）（案）」としてとりまとめました。

共通編では、劣化要因に応じた補修方針の立て方、構造物の劣化の進行段階に応じた各種補修工法の選定方法およびその留意点について整理しました。各種工法編では、補修材料の品質試験方法や施工管理標準等を提案しています。また、補修後の再劣化事例（不具合事例）を収集し、その原因について分析しています。

